

# 青谷地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成24年11月13日（火） 19:00～20:35

2 会 場 青谷地区公民館

3 出席者 地元出席者 34名

市側出席者 21名

竹内市長、深澤副市長、木下教育長、羽場総務部長、松下企画推進部長、山根農林水産部長、大島都市整備部長、藤井都市整備部次長、松ノ谷教育委員会事務局次長、久野中山間地域振興課長、北村生涯学習課長、富山危機管理課参事、尾室企画推進部次長

<青谷町総合支所>小林支所長（司会）、土橋副支所長、秋田市民福祉課長、中宇地産業建設課長、谷岡水道局青谷営業所長、大前地域振興課課長補佐

<事務局>谷村協働推進課主任、岡田協働推進課主任

## 4 「地域防災計画の見直し」について

スクリーンに基づき説明（危機管理課参事）

## 5 「協働のまちづくり」についての報告

（地区公民館主事） ※スクリーンに基づき説明

青谷地区の活性化を目指してと題して、青谷地区のまちづくりの取組みを発表します。副題を「まち歩きでまちづくり」としました。まず、地区の現状と課題についてですが、青谷地区の昭和27年の世帯数は967世帯、人口は4,799人でした。それが平成22年には925世帯2,724人になっています。世帯数はほぼ変わらないものの、人口は半数以下になっています。地区全体の若者人口が減り、高齢化率が高く、児童数は減少しているという実態があります。そんな中で、地区の賑わいが失われているのが現状です。そのような地域課題を解決するため、平成20年12月に青谷地区まちづくり協議会を設立しました。地域課題を受け、青谷地区まちづくり協議会の中に4つの部会を作り、現在それぞれ基本目標を掲げて活動を進めています。地区安全部会では「安心して暮らせるまちづくり」、地区再生部会は「地域の歴史と文化を活かしたまちづくり」、健康・体育部会では「みんなが健康で生き生きと暮らせるまちづくり」、福祉支援部会では「みんなで助け合い支え合う福祉のまちづくり」です。

本日はこの中で、地区再生部会の取組みについてお話したいと思います。今年の地区再生部会の主な事業です。住民対象の地域探訪事業をメインに、文化財の周辺の草を刈って整備する文化財保護活動を行っています。それに合わせて年に何回か部会を開催し、部会員の話し合いを持っております。基本目標に掲げた「地域の歴史と文化を活かしたまちづくり」を推進するために、地区再生部会では、地域の歴史を訪ね歩きました。青谷地区は青谷上寺地遺跡や最近発見された古代の道でも分かるように、縄文弥生時代より人が住みつき、特に亀井茲矩公の朱印船貿易の拠点となった桃山時代以降、港町、宿場町として繁

栄した歴史を持つまちです。そのため、江戸時代に建てられた石碑等の文化財が残っているのですが、時代の波に埋もれ、忘れ去られた存在になっていました。これらの文化財を後世に伝えるため、青谷地区歴史探訪マップにまとめる事業に取り組み、平成22年1月に発行されました。地区再生部会員が実際に訪ね歩いた中で、ぜひ文化財として残したいという史跡を選んで載せました。手に取ったかたがまち歩きできるよう、文化財に番号を振って順路を示したマップにしています。

### 青谷地区歴史探訪マップ 古き青谷を たずねて

青谷地区は、江戸時代には地町・宿場町として繁栄したところで、現在もその名残を表す石灯ろうや石碑、建物、町並みそして道などが見られます。これらは、地区の歴史や文化を物語る証、いわば『町のお宝（文化財）』です。

この歴史探訪マップは、こうした今に受け継がれる青谷のお宝を訪ね歩き、青谷をあらためて知ってもらうとともに、それらを大切に後世へ伝えてもらいたいという思いで作りました。

さあ、このマップを持って、青谷の歴史を訪ねて歩いてみましょう！



### 青谷の街並み 今・むかし



丸山から望む  
中町あたり



このマップを活用して23年度から取り組んでいるのが、住民対象の地域探訪です。青谷地区は江戸時代、神社を中心に6つの村に分かれており、地域探訪では、村ごとに探訪することにしました。最初に青谷地区の中心である旧潮津村を探訪しました。旧山陰道を気高から青谷に向かって歩くと、青谷に着いたところに題目塔という立派な石碑があります。参加者の中には、初めて題目塔を見たかたも多く、大変感激されていました。次に探訪したのが、旧芦崎村、青屋村です。地元に住ながら知るとこのなかった文化財が見られて良かったとの声が多く聞かれました。また、貴重な文化財でありながら手入れが行き届かず、周りに草が覆い茂っているものがあり、部会員で整備しようという意見が出て、地区再生部会員が年2回ボランティアで草刈りを行っています。地域探訪事業を通じ、青谷地区まちづくり協議会の事業を地区のかたにPRし、事業に参加してもらうことで、青谷地区の良さを再認識してもらうきっかけ作りができたと思っています。

また、他の3部会の部会員さんに探訪事業に参加してもらい、また地区再生部会員も他の事業に参加するなど、部会員同士連携を深めております。ただ、課題としては、地区のかたにとってまちづくり協議会の事業と公民館事業との区別がつきにくく、まちづくり協議会の知名度が低いということです。そのため、地区住民主体の活動になりやすく、地区住民への浸透がしにくいという悪循環になっています。自分たちの地区をどういったまちにしたいのか、地区と行政とが一緒に考えていくことが必要と思います。平成23年に青谷地区まちづくり計画を策定したとき、あかるい青谷のまちづくり、「おーいみんなでやらいや」をテーマに決めました。今後も皆で青谷地区のまちづくりを進めていきたいと思っています。

## 6 地域の課題についての市長等との意見交換

### 旧コクヨ跡地及び旧青谷町中央公民館の活用について

鳥取市と合併して8年目を迎えたいま、毎年100人のかたが亡くなり、生まれてくる子どもは40人弱。人口の流出も激しく、青谷町の人口は急速に減りはじめ、9月末現在7,000人余り、高齢化率も34%となっており、町全体が強い閉塞感に包まれてお

ります。

こうした中、就業改善センター一部分は青谷地区公民館として活用されており多くの人に利用されておりますが、旧青谷町中央公民館は突然の使用中止となり、町の中心地にまるで廃墟のごとく佇んでおります。

耐震面から危険という理由で突然の使用禁止、就業改善センターは一部改修して青谷地区公民館として使用、同時期に同地に建てられた旧青谷町中央公民館は使用できるよう改修するわけでもなく、危険だからといって壊すわけでもなく使用禁止のまま放置、同講堂も然りであります。昨年、福井田川に矢板を打って護岸を整備すれば地盤沈下を食い止めることが出来、再び使用することが可能ではないかと、調査のための予算が付いたのにどうなっているのでしょうか。また、旧コクヨ跡地にしても集約した商業施設を作るといって税金を投入して買った土地も何十年も塩漬けのまま状態となっています。プロジェクトチームでも作り、これらを何とかして下さい。希望の持てる、青谷に住んでみたいなど思えるようなまちづくりをして下さい。

#### <担当部局の所見等>

##### 【都市整備部】

###### [福井田川の護岸整備について]

平成23年度に旧青谷町中央公民館沿いの福井田川（延長約200m）の調査設計を実施しましたが、これは今後の福井田川護岸整備の実施設計をするための予備的な設計で、直接的に旧青谷町中央公民館用地内の地盤沈下に対しての対策ではないことをご了承願います。

この福井田川の整備につきましては、鳥取県が施工中の日置川河川改修工事の進捗を見ながら進めていきたいと考えています。なお、鳥取県が整備する日置川河川改修は、現在、山陰道の上流部を整備中であり、この区間が平成26年度まで続く予定です。JRから新青谷大橋の間については、平成24年度から平成26年度にかけて用地買収を実施し、平成27年度以降改修工事を実施する予定です。

##### 【教育委員会】

###### [旧青谷町中央公民館について]

旧青谷町中央公民館は、地盤沈下が顕著であり地震が発生した場合、倒壊の危険が非常に高いことなどから、平成18年2月9日から使用禁止にしています。その後、中央公民館の機能は、大部分を青谷町総合支所に移転するとともに、旧青谷町中央公民館に隣接する就業改善センターを青谷地区公民館として改修し、機能の一部を補完させています。このため、当該施設を再利用する計画はありません。今後は、解体整備する方向で検討しますが、現在、学校や防災拠点施設、避難所指定施設の耐震診断・耐震改修整備を優先的に進めており、財政的な事情を考慮すると、早期の解体整備は困難と考えます。

当該施設の解体時期の検討を進めながら、周辺の景観や環境に配慮しつつ、併せて防犯・防災対策を徹底することにより、引き続き施設の適切な管理に努めてまいりますのでご理解ください。

## 【青谷町総合支所】

### [地区の活性化策について]

青谷地区は青谷地域の主要なインフラが集中し、また、その機能の結接点として（経済、商工産業、交通、サービス）重要な位置にあります。

定住人口の減少に見られる少子高齢化が進行しています。また、空き家や空き地も点在するようになりました。

鳥取市では、都市計画マスタープランで各総合支所が所在する8地区を地域生活拠点として位置付けており、安全・安心で暮らしやすい都市の実現に向けて中心市街地の再生と併せて、地域生活拠点の再生が重要となります。

このほど青谷地区で、地域生活拠点の再生に向けて、地元のみなさんを中心に検討委員会を立ち上げ計画づくりを行いたいと考えています。

（都市整備部長）

旧青谷町中央公民館沿いの福井田川について、私どもが担当しておりますのは河川の護岸整備なのですが、まず背景からご説明申し上げます。福井田川については、平成23年度に調査を実施しました。これにつきましては、いただいたご質問では、地盤沈下対策も含んだものではないかということですけれども、私どもでは、護岸整備の予備的な測量等を行っております。直接的に地盤沈下の対策として行っているものではないことをご了承いただければと思います。

この福井田川の整備につきましては、鳥取県が日置川を上流から整備をしてまいります中で、順次計画を立てておりまして、4、5年先まで順次計画していくこととなります。県が福井田川との合流地点まで、もう次の計画の検討を始めているものですから、23年度にこちら側、市の担当する側も整合を取るために準備を始めていると、そういう状況でございます。

図に出ております通り、山陰道の上流部につきまして、平成26年度まで整備を行い、その後、こちらに27年度から下ってくると



いかたちの計画になっております。それで、24年度から26年度にかけて用地買収を実施して、27年度から事業に入る予定だと、県からは伺っているところです。

(教育長)

旧青谷町の中央公民館についてです。旧青谷町中央公民館は地盤沈下が顕著でありまして、地震が発生したときに倒壊の危険性が大変高いということなどから、平成18年2月9日から使用禁止にしております。その後、中央公民館の機能は大部分を総合支所の方に移転をいたしまして、旧青谷町中央公民館に隣接をいたします就業改善センター、これを青谷地区公民館として改修をして、機能の一部を補完させているところであります。このため、誠に申しわけございませんが、当該施設を再利用する計画はございません。今後は解体整備する方向で検討いたしますが、現在学校や防災拠点施設、そして避難所指定施設の耐震診断、あるいは耐震改修整備を優先的に進めておりまして、財政的な事情を考えますと、早期の解体整備は困難というふうに見ております。当該施設の解体時期の検討を進める一方、周辺の景観や環境に配慮しながら、併せて防犯防災対策を徹底することによりまして、引き続き、施設の適切な管理に努めてまいりますので、ひとつご理解いただきたいと思っております。

(副支所長)

地区からいただきましたご意見を受けまして、支所の地域振興課では、地区の活性化策を検討する上でということで整理をさせていただきました。

青谷地区は青谷地域の主要なインフラが集中し、そしてまたその機能の結節点として重要な位置にあるということです。それから、先程からお話に出ておりますけれども、定住人口の減少にみられるように、少子高齢化が進行しています。そして、空き家や空き地も点在するようになってきています。鳥取市では、鳥取市都市計画マスタープランで各総合支所が所在する8地区を地域生活拠点として位置付けておりまして、地域生活拠点の再生が重要となってきているというふうと考えております。

そしてこの程、青谷地区で地域生活拠点の再生に向けて、地元の皆さんを中心に検討委員会を立ち上げて計画作りを行いたいと考えております。先ほど8地区を拠点として、と申し上げましたけれども、総合支所が所在する8地区、それから津ノ井、湖山を含めたこういった部分を中心に、中心市街地と併せて整備をしていくということで、平成18年の5月に策定をしたものです。人口のことが先程来ずっと出ておりますけれども、鳥取市も合併以来、人口が20万人からずっと減ってきております。30年後には約1割減



少するというふうに推計されておりますし、特に生産人口については約2割減少し、高齢化は上昇し続け、約3分の1程度が高齢者となる、超高齢化社会へ向かうというふうに推定をしております。

青谷地域はと申しますと、これは国勢調査の資料ですけれども、9月末現在も7,000人を切って6,900幾らというふうになっております。高齢化率についても、やはり3人に1人以上が高齢者になっているという状況です。地域を取り巻く環境ということで、これはいずれの地区でも言えることですが、人口が減少し、少子高齢化が進む。それから生活圏の広域化ということで、生活拠点機能が低下している。それから生活様式の多様化でコミュニティの希薄が進む。それから、地域経済の衰退、それによって商店街の空洞化、働く場の喪失、そういったものがございます。

そこで、青谷の現状はどうかということで、少しお話をさせていただきたいと思っております。ご意見の中にもありましたように、人口は減ってきますし、それから空き地、空き家が点在してきているということで、旧コクヨ跡、これが約7,000㎡ございます。それから旧役場跡、これが1,300㎡ぐらい、それから旧中央公民館の敷地が約2,800㎡、そして空き家がこの青谷地区で40軒ぐらいあると、それも駅前の方が多いというふうに聞いております。それから商店も減りました。買い物も外に出てするようになりました。コンビニも残念ながら青谷地区にはございません。

そして、コミュニティの部分では地区の行事が減り、総事も減ってきております。一般論としては、そのように、いわゆるマイナスのイメージが強いわけですけれども、先程のまちづくり協議会からの報告もありましたように、よく目を凝らすと見えてくるもの、マイナスじゃなくてプラスのイメージというか、プラスにして行きたいイメージ、そういうものをこれからは考えてみたいと思っております。

皆さん、この青谷地域に外からのお客様、いわゆる観光客とでも申しましょうか、来訪者、どのくらいの方が来ていらっしゃると思われませんか。青谷と言えば、先程からこれもずっと出ておりますけれども、弥生時代の遺跡。人の脳の発見で一躍有名になりまし

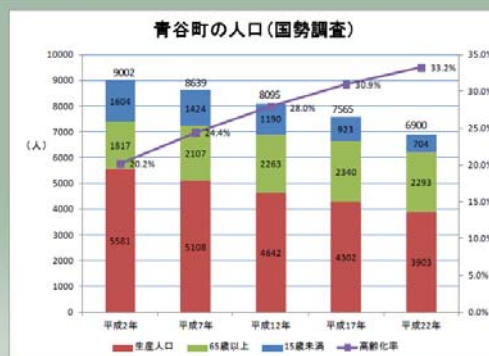
## 鳥取市の人口減少・高齢化の進展

- 鳥取市は、総人口が今後30年で約1割減少するものと推計されている。
- 特に生産人口は約2割減少するもの、高齢化率は上昇し続け、平成47(2035)年には、約10ポイント上昇し、市民の1/3程度(32%)の超高齢社会へ



## 青谷町の人口・高齢化の状況

- 青谷町では、総人口が20年で約23%減少している。
- 特に年少人口は20年前の約44%に減少し、高齢化率は上昇し続け、約33%の超高齢社会となっている。



た上寺地遺跡、それに伴う展示館、そしてあおや郷土館があります。海の方に行きますと、鳴り砂、それから夏泊の海女。それから和紙。お酒の醸造もごございますよね。そしてもうひとつ、ダイキンの研修施設がごございます。この青谷地域への入込客数ということで、観光施設で数字を取っておりますので、調べました。年間4万4,000人ぐらいです。これは、ダイキンは入っていないくて、ダイキンさんに聞くと、だいたい研修で、実人員で5,500人ぐらい利用されているように伺っております。参考までに、隣の気高地域では16万人、鹿野地域では17万6,000人という統計の数字が出ております。鹿野、気高については温泉がございまして、温泉の入湯客も入っておりますので、このように増えております。これを多いと見るか少ないとみるかですけれども、年間4万4,000人入っていらっしやいます。

そして、コミュニティの部分はどうかということで、地元住民の皆さんによる活動、先程まちづくり協議会の活動の報告もございました。その他に、鳴り砂のクリーンキャンペーンであるとか鳴り砂ビーチフェスタ、あおや夢灯ろう、それから青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会がやっておられる田んぼアート、それからコスモスを植えて綺麗にしようというような取組みもごございます。そしてもうひとつ言いますと、鳥取市ではいま、移住定住に力を入れていまして、青谷地域では16世帯約30人のかたがIターンUターンとして、こちらの方に移り住んでいらっしやっています。

地域生活拠点に求められる機能として、このように整理をしております。例として挙げておりますけれども、こういった基本的な部分というのが、やはり人が住み続けられる、そして住んで良かった、それから子どもたちが帰ってくる機能、環境であり、そういう魅力があると自慢できるものが必要になってくると思います。

それで、今回、皆さまがたと立ち上げていく検討委員会の目的ですけれども、この地区に求められる機能、地域拠点としてのあるべき姿、そしてあるべき姿を実現していくためのプロジェクトについてというふうに整理をしております。人が住み続けるため、住んで良かったと思えるため、そして子どもたちが帰ってくるため、それから外からお客さんに来ていただくためにそういったことを検討い



ただいて、計画として作っていただき、鳥取市へ提案をいただくというものです。

再生整備計画の具体化ということですが、検討委員会で検討いただき、これをいろんな部署と検討を進め、そしてパブリックコメントなども含めて、鳥取市として計画を策定し、事業に着手をしていくということです。この検討委員会のスケジュールは、これからだいたい3月頃までに5回程度想定しております。街並みを歩いていただいたり、それからいろんな現場に出て、課題検討なんかもしていただいたりして、そして3月を目途に再生整備の計画を出していただこうと思っております。委員の構成ですが、鳥大の先生を座長に、地区の皆さん、それから地域審議会のメンバー、地区のまちづくり団体、その他の皆さんで約10名。支所からも入って構成をして検討を進めていきたいと考えております。

これはあくまでも参考ですが、この青谷地区の図面をみながら、どういった再生をどのようにやっていこうかということです。駅前の居住区、日置川、親水公園であるとか、上寺地遺跡の部分、それから青谷地区の高台にある防災広場、そういったものを整備していく。そして、いまある施設をどう活用しながら進めていくか。そして具体的には出しておりませんが、旧コクヨ跡地をどの



ように整備していくか、こういったものを検討していこうというふうに思います。それで、ハードだけではなくて、そのハードを整備していく上にどういうまちを、そのためにはどういったことをやろうかというような、ソフトの部分も入れ込んで作っていきたく思っております。合併時に作りました新市まちづくり計画にも、憩いと交流の広場整備とか、上寺地ミュージアム遺跡公園、それから井手ヶ浜のキャンプ場の整備、そういったものが入っておりますので、具体的にどのように整備をしていくか、どう関わっていくか、そういった部分も検討いただければなというふうに思っております。

先程のスライドで「古き青谷を訪ねて」ということがございましたけども、この2、3日前に青谷支所の方に電話がありました。青谷地域を歩きたいんだけど、どなたかがガイドをしていただける人はいないでしょうかという問い合わせでした。こういったものが外に出ると、関心を持たれて青谷に行ってみたいと思われるかたが沢山いらっしゃるんじゃないかなと思います。青谷地区には古い家並みが多いと、先程も説明がありました。

私が個人的に思うのは、食事処が欲しいなということです。女性が好むような食事、特に青谷は和紙があるので、和紙を活用しながらそういったものがないかなと思っております。そういったことで、この青谷地区の活性化策を、今後皆さんと一緒に検討していきたいと思っております。



(地元意見)

いま、市の方からいろいろと説明いただきましたが、旧コクヨ跡地については何ら触れられておりません。教育長がお話されたり、その他の部局がお話されたりしましたが、旧中央公民館の問題ばかりで旧コクヨ跡地の問題については話をされておられません。いま、旧コクヨ跡地に入っております上寺地の展示館はバラックです。それが県と市でどういうふうな話し合いになっているかということをお伺いしたいと思います。

(支所長)

コクヨの跡地の利用について説明がなかったというご指摘につきましては、最後の、副支所長の地域生活拠点再生整備計画の中で、跡地を含めての全体を、今後利用プロジェクトチーム、委員会を立ち上げて考えていきたいという説明でした。

(地元意見)

観光人口が約4万4,000人くらいでないかということでしたが、波乗りなんかはどうなっているのでしょうか。県外のお客さんが相当入っております。その辺の人数が4万4,000人の中に入っているかどうか。昼はたぶん波乗りが少ないと思います。朝早く5時頃に来られますので、人口に入っていないのかなあと思っております。

(副支所長)

失礼しました。海水浴客というか、その波乗り、海に入るいわゆる観光客ですね、それはカウントができていません。

(竹内市長)

上寺地の展示館があります。プレハブ建てのものになっているのもご存知だと思いますが、あれは暫定的なものだという理解の下で、県が今後の整備の計画など立てています。恒久的な展示施設と言いますか、しっかりしたものを作ろうじゃないかという話は当然あります。市の方もそういう気持ちは持っておりますが、まだあまり内容の具体化が進んでいないのが現状です。従いまして、この点は現時点ではこれからの課題という位置付けであります。私も最新の状況を確認して出てこなかったこともありまして、まだまだ補足が十分ではない点、説明が十分でない点がありますが、早急にまた市で言うと文化財課、そして県のやはり文化財担当部局と協議していきたいと思っております。支所の方で把握していることがありますかね。

(副支所長)

特にありません。

(竹内市長)

これは課題として、はっきりと具体の計画まではまだできていません。場所なんかについても、そんなにはっきりした計画はありません。我々の認識でも、少し現在の場所から離れたようなところにはなると思いますが、上寺地の遺跡とか、公園のような整備が予定

されているようなことを考え併せて、どこにするのかも含めて今後の課題ということで位置付けております。忘れてはならないわけですが、具体化があまり進んでいないということを申し上げさせていただきたいと思います。県との話もまた再度確認をして、今回の議事録などでご説明できる最新の情報をお届けしたいと思います。

それから、もうひとつ補足ですが、副支所長が話しておりました地域生活拠点の再生計画というのを今年度作るわけです。この再生整備計画の中で、検討委員会の中で改めて地域の皆さんにも議論していただき、我々行政担当の方も知恵を出して、青谷地域のこの駅周辺なり、このまちなかを中心とした一定の範囲の拠点的な整備を進めようとして、市も積極的に計画作りを今年度は始めたというところです。これは補正予算をとって、今年度の事業に位置付けました。鳥取市では用瀬地域についてまずこれをやりましたので、市内で第2番目の、地域生活拠点の再生という取り組みです。青谷を用瀬の次にこれから検討しようと、その計画作りを進めようということにしているところでもあります。まちづくり協議会の関係の皆さん、あるいは地域審議会の皆さんなどのご参加もお願いしながら内容をまとめていきたいと思っております。

元に戻って、旧青谷町中央公民館の活用とか、旧コクヨ跡地の活用について、地域の皆さんの具体的なご意見とか、提案とかあれば出してもらったらいかなと思うんですね。我々も検討して、一応答を出して、紙に書いてお届けしたところです。それに基づいて説明はしましたが、今日の会は皆さんからの意見を受けて、また考えようというそういう対話の会ですので、どうでしょうかね。我々がこう考えていると申し上げましたが、皆さんの方からはこういうふうに考えてはどうかとか、そういった提案なりご意見がいただけないものでしょうか。

#### <補足：文化財課>

今後の計画について、鳥取県文化財課と下記のとおり確認しました。

鳥取県・鳥取市が平成22年3月に策定した整備活用計画では、公開・活用の拠点施設として、①調査・研究、②展示・公開、③收藏・保管、④体験・学習の機能を有することが必要であり、将来的に新設も視野に入れながら、当面は既存施設の利用・拡充を優先するよう計画しています。

青谷上寺地遺跡展示館は、仮設の建物で、展示面積も狭いが、展示・公開、体験・学習の場として当面の間は現状のまま利用します。

(支所長)

旧コクヨ跡地が7,000㎡弱ぐらい、それから旧中央公民館この敷地が2,800㎡ぐらい、それで、駅前の駐車場が1,300㎡。駐車場としていま、利用しておりますけど、その中で大きな7,000㎡弱の旧コクヨ跡地についての利用、何か参考の意見でもこういうのはどうだ、みたいな利用の方法とかご意見がございましたら、またアドバイスをお願いしたいと思います。

## 7 市政の課題についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

防災無線がだいぶ古くなりまして、この更新とかそういうことを市の方で検討をお願いできないだろうかという気持ちがあるんですが。

(支所長)

青谷町にある戸別受信機の。

(地元意見)

戸別受信機の方ですね。

(危機管理課参事)

旧鳥取市と国府は新しいものですからいわゆるデジタルで、防災無線ができています。問題になっているのは、アナログの地域をどうするかということです。結局、いまはアナログの部品がないというのが実態です。まだ部品は若干残っておりますけど、これから先、そういったことも含めて、鳥取市全体としてどう考えていくかということです。まず現状を調べて、今後どうしていくかという案、たたき台を今年度中に庁内で上げていきたいなと思っております。

(地元意見)

ここでなくて他のところでも、防災無線が非常に聞き取りにくくなっておりますのが現状です。各部落や地域の事業や町内会のお知らせであるとか、いろんなことでずいぶん活用されておまして、なくなると困るなあっていう家庭がございます。いまのお答えですと、考えているからもうちょっと待ってという話ですけども、実質的にいま困っているかたが、うちの方にも聞こえんようになったから直してくださいって持ってくるんですね。それで支所に行くと、部品がないから駄目ですって、それで終わりなんですよね。何と冷たいなあという思いがあります。

これがなくなったらどうするんだということもありまして、実はちょっと調べてみたんです。日置谷地区で奥崎と養郷でしたかな、あそこでNTT回線を使って、デジタルで繋ぐ、各部落の有線放送じゃなくて無線でやるやつをやっているんですね。かなり金が、200万円か300万円ぐらいかかるとおっしゃっていましたが、例えば市が補助金を出すと、そういう方法もできれば考えていただければ有難いなあというふうに思っております。ここも防災無線が1つありますが、支所にあつてこれが全地域に流れるんです。一斉放送になるわけですけども、そこら辺も、各部落で例えば地区の行事であるとか、そういう使い方ができれば、もっとその無線そのものが有意義に使えるなあという思いがあります。

(危機管理課参事)

防災無線のいわゆる戸別受信機ですね、これは、地域差があるんです。例えば旧鳥取市とかは戸別受信機はなくて、柱についた拡声器でガアアとやりますし、青谷みたいに戸別受信機があつて、きめ細やかな情報が流れるかたちというところもあります。それで、それを防災という観点で絞るか、それを利用した情報発信というふうなことで考えていく

かっていうことが、防災だけでなしに絡んでくるんじゃないかなと思っております。いずれにしても情報伝達は大切なことですので、こういった情報伝達をしたらいいかというのは、考えていけないといけないのかなと。補助をここに出すことについては、また全体のいろんなことがあると思います。補助することはあったりするかもしれませんが、その辺はもう全体で考えさせていただきたいと思っております。

(地元意見)

ひとつ苦情をと言いますか、相談を、ついですから防災無線についてします。青谷地区ではまちづくり協議会と合同で、駅前地区が海拔0mということになっておりますので、あそこを避難させる防災訓練をやろうじゃないかということで、9月の日曜日にいたしました。全町が各町内から2人ずつくらい協力して、駅前の町民のかたを支所まで避難させる訓練をやらせていただいたんですが、そのときに防災無線を使って、実はいまから訓練をしますという放送をやりたいんだという相談に地域振興課に行きましたところ、日曜日に誰がそんなもん協力するか、誰が放送するかって、一瞬のもとに蹴られたという話です。これは情けないなあと、何のための防災無線かなあと。

また地域振興課に聞きますと、これは青谷町に一斉に流れるものですから、青谷地区だけのそういう訓練に使うものには不資格だというふうに返答されました。これは例えばの話、青谷町民は全部それを知っておるわけですから、青谷地区では何月何日に訓練をしますからってことを予め流しておけば済む話です。そういうことで、本当にこれが協働のまちづくりかなあと、市民と市とが協働するという型が本当に職員のかたに浸透しているのかなと、非常に残念な思いをしたことがございます。結局、いわゆるハンドマイク、あれで地区を回って、これから、津波がきますので避難してくださいってことを言って歩いたんですがね、非常に防災無線が何のためにあるのか、そこら辺も含めて一考をしていただければ非常に有難いなあというふうに思っております。

(副支所長)

先般のこの地区の防災訓練の件で、地域振興課の方から駄目というふうに一蹴されたということでした。そういった言葉づかいであったかどうかは私も承知しておりませんが、確かに、計画し実行していく段階で、このまちづくり協議会っていいですか、公民館と地域振興課の担当者レベルでの詰めと言いますか、具体的な部分についてどのように運用していくか、駄目なのかいいのか、駄目だったらどういう方法があるのかというような詰めができていなかったというふうに私の方も認識をしております。今後、適正な運用ができるように、また、支所としても親身になって地区の皆さんと訓練から対応、そういったものができるように努めていきたいと思っております。

(竹内市長)

情報伝達の話とか、防災無線の話とかいろいろあったと思います。まず基本的に、国の方針がデジタル化にもう決定していて、今後、アナログの防災行政無線はデジタル化することになります。その場合は鳥取市全体をデジタルの、基本的には共通の周波数の電波を使って流していくようになるので、どうかたちで将来的に全域を整備していくのかっ

てというのが課題になります。ですから、アナログのいまの防災行政無線は切り替えていかなくちゃいけない。そして、青谷町、気高町、鹿野町など鳥取市には9つの地域が全体であるわけですが、別々の周波数をもらうということはできません。要するに1つのデジタル波で使うようになるので、そういう前提でどんな整備をするかと。ひとつの考え方は、現在鳥取地域・国府地域でやっているような方式に全域に切り替えていく。これは、どうしても聞こえないような場所についてだけ、あるいは特別に防災上重要な、例えば地域の防災関係者、あるいは消防団の団長さんとか副団長さんとか、そういう防災関係者のところに戸別受信機を置くことはあっても、一般的には屋外のラップ型の放送設備というような考え方でいくというもので、ひとつの大きな流れなんですよ。

ただこれでは、戸別に受信機がないと伝わりにくいということもあって、コミュニティFMを使った方式も検討しています。FM受信機、これは値段も安いし、個人でも簡単に買えるものですので、皆さんもちっちゃなFMラジオなんかお持ちだと思います。デジタルの戸別受信機は10倍くらい高いんですね、3万円とか4万円とか。ですから、FM波を使ったコミュニティFMによる防災放送で、各個人に伝わるような方式も検討しています。これだと、おそらくあんまり大きなお金をかけなくても、皆さんの各家庭に防災情報を、FM波を使って鳥取市内の放送局でできるであろうということで検討しているわけです。

その他、そのデジタル放送、屋外のラップ型の設備ってというのは、実はそれぞれのところで、そこからそのスピーカーを使って放送することはできるのです。例えばこの公民館の適当な場所に1つちょっと高い塔を建ててスピーカーが付くと、必要な放送をそこからすることはできます。地区単位でできるのかな、あれは。

(危機管理課参事)

柱にマイクが付いていて。そのスピーカー4つで流すだけなんです。

(竹内市長)

それは、だいたい半径200mぐらいの範囲になるんで非常に限られている。ただ、青谷地区全体でもそういうかたちで整備した場合は、場所がいらないので、ある程度連絡を取り合って放送すればそういうこともできますが、これは将来構想的な話です。現在のアナログ無線の次は使い方の話ですが、アナログ無線で放送するときは、地区別に放送できるのかな。

(支所長)

設置当時は地区ごとにできていたんですけど、いまは老朽化してきまして一斉になってしまいます。切り替えができないようです。

(竹内市長)

現状はできないということです。本来は青谷地区、日置谷、日置、中郷、勝部と分けて放送できたらいいんですが、いまのところ一斉でしかできないということであれば、その場合ですね、総合支所から、それは青谷地域共通のテーマであれば他の地区が知っても別

にいいわけですから、そのアナログの行政防災無線を使って朝夕の連絡などで放送できたら良かったですね。臨時でもやろうと思えばできると思いますから、それはちゃんとルールを決めてやっていただけたらいいと思います。

例えば合併前の町村では、誰れさんが亡くなったとか、それから火事が起こったら火事の放送をしますとか、全町村にそういうようないろんな運用があったと思います。それで、そういったことについて一定のルールを整理したと思いましたが、もちろんこういうのは臨機応変にやるのが大事なんです。防災訓練なんていうのは大事なことですよね。防災のために整備している無線だから、総合支所の方ともよく話し合って、支所もできるだけ協力して。誰がするだいやというような問題じゃないと思うんですね。守衛さんもあるわけだし、もちろん近くの職員が駆けつけていってやればいいわけですよね。そういうことは、私はもっともっと話し合いをして実施して欲しいと思うし、それができない総合支所でもないと思います。ちょっと残念に私も思っていますから、また今日の話の下に考えてもらえんと思います。先程の副支所長もそういう話だったですよね。

青谷の無線っていうのは、他の町の無線のシステムに比べても整備が早かった分だけ、いま老朽化する段階にきているので、いろいろご不便やご不自由をおかけしていると思うんですね。一番先に整備を検討しなきゃいけないのは青谷だというのは、合併の時点から私の方も感じていましたので、いまの時点で、できるだけ早く検討して、次の将来的な体制をどうするか決めたいと思います。ただ、いまの設備をデジタル化すると不便な点も出てきたりする恐れがあって、できるだけ長く使ってほしいなというのも一方であります。修理とか、そういうのには費用をケチケチするつもりはありませんので、地区ごとに放送できないかとかそういったことも含めて、何か改善できる点があれば、あるいは個々の受信機の電池の問題とか、いろんなことがあったと記憶していますので、また地域のお話、よく総合支所と相談して、できることをしたいと思います。

(地元意見)

いま、市の庁舎についていろいろまた揉めているようですが、今後どのように動くんでしょうか。それをお聞かせください。簡単でいいです。

(副市長)

揉めているというわけではありませんが、5月20日に住民投票が行われまして、現在地での耐震改修か、あるいは移転新築かということで、多数のかたが現在地での耐震改修を選ばれたという状況がありました。ただ、この後の状況がいろいろございます。この耐震改修の案が、議会で条例を提案されるにあたって、十分精査されていないようなことがありましたので、現在議会の特別委員会の方で、この案について専門の設計業者さんの方で検証をしていただいたのですが、どうも20億8,000万円では難しい、できないという結果がこの度出ました。それで、これからどうするかということですが、これにつきましては、もう少し議会の方で、このあたりを今後どうしていくのか議論が必要であろうということで、明後日また特別委員会が開かれる予定になっておりますので、この議会の議論の状況をもう少し、注視をしていく必要があろうかなと考えておるところです。いずれにいたしましても、これは非常に急がれる課題ですので、こちらの方も議会の議論

を注視しつつ、またこちらの方も方向を出していく必要があろうかなと考えておるところです。

## 8 市長あいさつ

青谷地区の地域づくり懇談会に皆さんの貴重な時間を割いて、ご参加をいただき本当にありがとうございます。言葉としては役所用語なんで分かりにくいと思いますが、この地域生活拠点というのは、鳥取市で、市内の10の拠点というのを考えています。特に青谷町や、さっき言いました用瀬町などの各町の、駅とか総合支所とか、そういったところを中心としたような一帯のエリアの振興について、この地域生活拠点の整備ということで、改めてスタートを切っております。先程も触れましたが、青谷町の地域については今年度、積極的に議論をして、青写真を描こうじゃないかということをはじめたわけでありまして。これによって、新しい夢のある地域の整備について打ち出そうとしております。この青谷町の青谷地区は、上寺地遺跡が大きな地域の特色のある財産ですし、また夏泊から長和瀬までの海の沿岸部の地域が港であったりするわけです。この中で、先程もちよっと出ておりましたが、新しい魅力ある取組みとして、サーフィンとかそういうのを活かしてはどうかというの、我々もよく話に出しております。そういう意味では、井手ヶ浜の大阪から来られたサーファーのかた、店も出しておられますが、ああいったかたも地域の人材ですので、ぜひ活かして、この自然の恵み、海の波とか海岸、そういったものを、何とかこの青谷のひとつの特色として活用できないか。青谷は、青いという字の連想で、海というイメージがぴったりなのです。やはりこうやってきていただく人が増えれば増えるだけ、いろんな地域に活性化とか、賑わいとかが起きるわけですね。そういう意味では、そういった方策を、先程申し上げました上寺地のこととか、海の素晴らしさとか、あるいは水産資源ですね、こういうものを活かしていくようなかたちで考えていけたらどうかと、特に青谷地区について、青谷町の中でも思っているところです。

それから例えば青谷高校。それを核にして、国際理解の教育なども進められているわけですし、こうした高等学校の存在って非常に大きい。鳥取市内の街なかには別にして、各町で高等学校があるところはないわけですし、地域の特色であります。県の教育委員会の最近の発表を見ていると、高等学校の学級数を減らすというのが出ておりまして、そういう意味では、どういうふうにしてこれを盛り立てていくのか、これからの展望を持っていかなくちゃいけないなと思っております。また、地域の皆さんとも一緒になりながら、県と予め議論を進めておく必要がありはしないかというふうに思います。

そういった、これからのこの地域を活性化する攻めと守りですね、両面でしっかりと力を入れた取組みを展開したいと思っております。地域の歴史を知ろうということで、先程も町を見て歩く取組みというのは紹介がありましたけれども、ああしたことを通じて、ぜひ地域の歴史とか地域の良いものの情報発信を、総合支所とも一緒になりながら地域の方からどんどんしていただいて、人を呼び込む努力をしてほしいものだなというふうに思います。協働のまちづくりの精神で、我々も一緒になってやりますので、ぜひともそうした取組みをお願いしていきたいと思っております。

また、最近私もある程度展望を持ちつつあるのが、山陰海岸ジオパークを白兔で止めないで、青谷まで引っ張ってくるということです。これはまだ確定的ではありませんが、

これはちょっと力仕事だとは言え、頑張っ実現したいと思っっていることす。ジオパークが何かだんだんと大きな地位を勝ち取りつつあるんですけども、青谷のかたからは、ぜひ、先程も例に挙げました、井手ヶ浜とか長和瀬まで青谷いっぱい、要するに鳥取市の一番西のところまで入れて、ジオパークにしてほしいという声を聞いておりますので、これに力を入れようということで検討を続けております。そうすれば、この長尾鼻とか井手ヶ浜とか、その他鳴り砂の資産がまた生きてくるというふうに思っっております。そんなことを思いながら、いろいろ鳥取市としても取組みを進めておるところす。

これから寒い季節になってまいります、こうやろう、ああやろうといういろんな話も地域の中で進めていただき、また次の年を迎えていく。予めいろんな議論を重ねる中で、次の展開があるわけすから、ぜひそのような取組みをお願いします。先程、副支所長が言っっていたように、食事処というのが昔はたくさんあったんだけど、減っってきたというふうに聞いております。この青谷町の青谷地区でということでしょうけど、そういうことについては、どういうふうにしていったらいいのか。やっぱり訪ねてくる人を増やさないとなかなかできないんですね。さっきの旧コクヨ跡地も、やはり、そういうことで何か上手く活用できないかと思っんです。皆さんにも投げかけさせていただきましたけども、これという決定打となるような案がこれまでなかなかないんだと言っ話で、私もちょっと困っっているというのも正直な話す。ですが、困っ立ち止まっいたら何ものりませんので、地域のいろんなかたがたすね、商工会のかたもいらっしやると思っますし、その他、観光に造形の深い先程の人材の話もしましたけども、いらっしやると思っます。気高や鹿野も温泉を100%は使っなくて、温泉のお湯そのまま流したりもしてたりするので、そういうものを使えるような知恵が青谷であれば、そういったことも考えられると思っます。土地はあるよということだと思っますし、そして駅に近いところすから、何かこう活路を見出すとでも言っますか、何か知恵はないだろうかとこのうふうに思っます。ちなみに、用瀬には流し雛というのがありますが、流し雛の行事が行われるときは、その日だけすけど、用瀬の駅にスーパーはくが停まるんすよね。多くの人を集められることができれば、そういったことも含めていろんな可能性が開けてくるというのが事実す。貝がら節といった財産もどう活かすか、青谷にとっても課題だと思っますし、我々も微力ながら知恵を絞っ頑張りますので、地域の皆さんもこのうことをやろうじゃないかといううようなお話しを、引き続き、まちづくり協議会など中心に進めていただけたら大変幸いだと思っます。

来年度はまちづくり協議会で、防災関係の補助金も充実をさせようということで検討しています。海に近いところで、防災関係に関心の深い皆さんも多いと思っますので、ぜひとも活用していただきたいなと思っます。いろいろ言ったいこともあつたりして長い挨拶になりましたが、皆さんと一緒になっ地域をもっと活性化させたいと、賑わいのある地域にしていきたいと思っしておりますので、どうぞ引き続きよろしくお願っします。本日は大変ありがとうございました。